



○自己紹介

青年海外協力隊として令和7年7月末から令和9年3月末まで、パラオ共和国に派遣されています鈴木聡史です。これまで福井県の公立高校で理科教員をしていて、福井県の教員を続けさせていただきながら青年海外協力隊として派遣されています。パラオに来て早くも4カ月が経ってしまいましたが、これからパラオでの活動や生活、文化などについて紹介していきたいと考えています。

配属先はベラウ・モデクゲイ・スクールで、日本でいう中学3年～高校3年までの4学年が在籍しています。理科教育支援として理科の授業や実験のサポートを行って、生徒さんに科学へ興味を持ってもらい理解を深めるお手伝いをします。

写真は顕微鏡観察の授業でパートナーのヘンリー先生と生徒達と共に撮った写真です。



○パラオ共和国という国

パラオ共和国は日本から真南約3,000kmにある小さな島国です。日本から真南に位置しているので日本との時差はありません。パラオは日本と歴史的に深いつながりを持っています。1919年から1945年までの間、パラオ共和国は日本に委任統治されていて、多い時でパラオ人6,000人に対して15,000人の日本人が住んでいました。当時日本の教育なども行われ、日本語や日本の文化が今もパラオには数多く残っています。

○パラオ語に残る日本語

この通信のタイトルにある「Sulang」はパラオ語で「ありがとう」という意味です。（私が置かせていただいている環境に感謝を込めて）

歴史的に日本と深いつながりにあるパラオでは言葉に約1,000語の日本語が残っています。世界で唯一、日本語を公用語として法律で定めているアンガウル州がある興味深い国です。例えば、ベンジョ、テンジョウ、ダイジョウブ、タンス、センセイ、ダイトウリョウは日本語と同じ意味で使われています。その他、ツカレナオース＝ビールを飲む、サッポロイチバン＝インスタントラーメン、じゃんけんの掛け声＝アイコデショ 等々、日本とは違った使い方残っているものもあります。生徒とのやり取りで日本語を使いながら楽しんだりもしています。



○パラオの自然環境

パラオにはロックアイランドと呼ばれるサンゴが波によって削られてできたキノコのような形をした島々があり、とても綺麗な海が広がっています。世界中から多くの人が観光やダイビングに訪れています。ぜひ、お越しください！！

